

子どもたちが
自分の未来も
自分のチカラで
歩けるようになるために



「仲間・学び・自分・社会・ホニモ」に会う



Hiragarusekai ni mukatte...

一般社団法人 こもれび

TEL: 06-6643-9021 FAX: 06-6643-9322
住所: 大阪市西区堀江1丁目22番3号TK南堀江ビル201・401・501号
らじおむ住所: 大阪市西区南堀江3丁目11番22号HORIEJNSビル6F
E-mail: info@kmr.jp Web: <http://www.kmr.jp>



Webサイト



Facebook



Instagram

子ども支援事業

一般社団法人 こもれび

2020年11月発行

ごあいさつ

こんにちは。一般社団法人こもれび代表の水流添 綾（つるぞえ あや）といます。

こもれびでは、子ども支援を軸にさまざまな活動を展開してきました。

これまでの活動を通じ、すべての子どもが輝く可能性があることを確信する一方で、制度の枠組みに入れず孤立し支援が届いていない子どもたちがたくさんいる現実を目の当たりにしてきました。そして支援を受けることができないまま押し出されるように社会に出ていく環境にある子どもが少なくありません。そんな子どもたちにも、さまざまな学びの機会に出会い、体験し、自分を信じ、社会に出て輝いてほしいという想いから、フリースクール『Ecole de らじえむ（らじえむの学校）』をはじめ、新たに『子どもと社会かけはし事業』として展開していきます。これまでに会った子どもたちの成長と変化をご覧いただくとともに、これから会える子どもたちの未来をこもれびと共に応援していただけると幸いです。

こもれびについて

『はじまりは、ここから。』

2010年夏。大阪市西区で起きた3歳と1歳半の姉弟が母の50日間の放置により餓死するという事件。

自分たちの暮らす街で起きたこの事件、決して人ごととして終わらせることはできませんでした。

「これから未来へ向かうはずの子どもが命を落とし、懸命に子育てをしてきた母親が事件を起こした当事者になってしまうこと」を繰り返してはならないと強く思いました。これまでの実践を振り返るため、大学院へ入学すると同時に、福祉の道へ志した時に会った夫と何回も話し合いを重ね、一大決心をし、「とにかく、始めるしかない！」と、2013年12月に一般社団法人こもれびを創設しました。

『こもれび』 の 由来

“こもれび”という名前には、
木々の間から優しく伝わる光。
光は、心身をあたためる元気の源。
次へと進むための道しるべ。
人生という舞台の上に立つ一人一人を照らす自然で
やさしい光を届けたい！！という想いが込められています。



代表理事

つるぞえ あや
水流添 綾

社会福祉士 精神保健福祉士

桃山学院大学大学院
博士前期課程修了 社会福祉学修士

福祉にも
キラキラと
ワクワクが
詰まっているって
知っていますか？



理事

つるぞえ まこと
水流添 真

社会福祉士 公認心理師
主任介護支援専門員
龍谷大学大学院
修士課程修了 理学修士（数学）

福祉だからこそ
「たのしく、
しんけんに！」

事業紹介

こもれびでは、『ひとりぼっちをつくらない！！』を理念に掲げ、つながり合うこと、可能性を信じることを大切に“たのしく、しんけんに”を合言葉として活動を展開しています。

子ども部門

じえるむ



〈子ども家庭育成事業〉

障がい・発達に特性のある子どもの療育*と家庭のサポート
子ども家庭福祉の専門職による愛着の形成や
ソーシャルスキルを身につける場

児童発達支援（就学前の子ども）

放課後等デイサービス（主に小学生）

*療育…発達の遅れや発達障がいのある子どもに対して特性に応じた個別の支援計画を作成することで、発達と自立・社会参加をサポートすること。

いるどらぺ



〈アウトリーチ事業〉*

不登校・ひきこもり・ネグレクトなど様々な課題を抱える子どもへの
アウトリーチと安心安全な居場所づくり

夕刻を支える場『夕刻の場』

ギター教室『こもれびミュージッククラブ(KMC)』

学習の場（大阪市塾代助成事業）

子ども自立アシスト（大阪市委託事業）

*アウトリーチ…アウトリーチとは、「手を伸ばすこと」を意味します。支援が必要であるにも関わらず、届いていない人に対して積極的に働きかけること。

2020年12月
より
スタート!!

らじえむ



〈子どもと社会かけはし事業〉

社会での自立に直面している不登校の子どもとの出会いと学びの場

フリースクール『Ecole de らじえむ』（不登校の中～高校生
・通信制高校生生徒）

放課後等デイサービス（主に中～高校生：午前の部 / 不登校）

*フリースクール…様々な理由で学校に行くことができない人が学校の代わりにすごす場所のこと。民間の教育機関なので形態はさまざま、子どもたちの主体性を尊重。



〈相談支援事業〉

相談だけでなく長期的な計画に基づき
専門の関係機関へとつなぐサポート

障がい児・障がい者相談支援
居宅介護支援
有料相談

ゼロひゃく相談
支援センター
（0歳から100歳以上！）

こもれびの特徴

- 1 社会福祉士を中心とした専門職のスタッフのチームで動いています！
関係機関と連携してサポートするだけでなく専門性を活かして子どもから大人まで丁寧に向き合っています。
- 2 ワンストップ窓口を可能にしています！
多面的・包括的にとらえて見立てるソーシャルワークのスキルで適切な判断をして動いています。
- 3 「つなげる」だけでなく「つながり続ける」関係を築いています！



『じえるむ』について

じえるむ

- Germe -



〈子ども家庭育成事業〉

児童発達支援（就学前の子ども）

放課後等デイサービス（主に小学生）

『じえるむ』とは、フランス語で『芽』。

子どもたちの可能性の芽を伸ばすため、18歳未満の子どもたちの療育を行います。少人数制を取り、人と人とのつながりの中で、これからの人生に必要な人への信頼、自分についての自信、いろいろなことにチャレンジしてみようという意欲など大切な要素を伸ばします。また、療育の場だけのかかわりではなく、家庭や学校での生活を円滑に送ることができるように、保護者様の声に耳を傾け、ソーシャルワークの視点をもって各機関との連携も行います。

大切に していること

- 子ども・保護者の方・スタッフ、みんなが“笑顔”になれる場所づくり
- 一人ひとりの“可能性”と成長、発達する力を信じ、引き出し、伸ばす
- “ご家族と一緒に”考え、見守る
- 一人ひとりの“個性”を大切に、お互いに尊重し合える関係づくり
- 今を大切にしながら、将来の“自立”を見据えた視点
- 必要に応じて保育園や幼稚園、学校など“地域との連携”を図る

児童発達支援 3~5歳

活動の中には、手先を使う活動や身体を動かす活動も取り入れています。中でも大切にしているのが自由遊びの時間です。子どもたちが「やりたい」と発信する好きな遊びの中に、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を取り入れ、スタッフやお友だちとやりとりの方法を身につけていきます。また、その日に食べるおやつや製作活動で使う折り紙の色等、子どもたちが自分で決めて選ぶ自己決定の機会も大切にしています。安心できる大人との関わりが子どもたちに必要となり、それを満たして次の成長へとつながっていきます。



スタッフと楽しくボールあそび♪
ご家族以外の人とも
関われるようになりました♪



絵の具を使って『こいのぼりづくり』♪
一枚一枚、うろこを塗っていきます♪



サンタクロースとあいさつが
できるようになりました♪

子どもたちとの日々の関わりの中で、はっきりと感じることは、それぞれの自分の思いをしっかりとっており、「わかって欲しい」と思っているということです。その思いを言葉だけではなく、視線・表情・行動、さまざまな方法で伝えてくれています。そんな子どもたちの思いを肯定的に受け止め、言語化しながら関わることで、活動に苦手意識があり、その場をぐちゃぐちゃにしていた子が「わかん先生やっ。」「どうするん?」と言葉にしたり、お友だちの遊びに入りたくても入っていけなかったり、おもちゃを奪い取っていた子が「何してるん?」「貸して。」と、相手のお友だちに声を掛けられるようになっていたり、自らの思いの表現の仕方に変化がみられるようになっていきました。その過程は、ゆっくりであったり、行ったり来たりを繰り返したり、子どもたち一人一人のペースはさまざまです。一人一人のペースに合わせて、一緒に小さな「できたね。」を積み重ねていくことが、大きな成長につながっていくと考えています。（鎌野 由貴恵）



『じえるむ』スタッフ

子どもの成長と変化

児童発達支援 2~3歳

2～3歳ごろは、保護者や身近な大人からの無条件の愛情と受容の中で幼児が他者と自分への信頼感を深めながら（愛着形成）、様々な能力を開花させていく重要な時期です。じえるむでは今後の発達や人格形成の土台となるこの愛着形成（＝アタッチメント）を療育の基礎に、遊びを通じて①発語・発声・意思表示を引き出すコト

②トイレトレーニングをはじめとするADL（日常生活動作）支援

③社会性の芽を育て、集団生活（保育園・幼稚園）に向けた準備をする等に取り組んでいます。



みんなと仲良く砂遊び♪
はじめは遠くで見ているのが
精一杯でした♪



スタッフにもココロを
開けるようになりました♪



ワニさんと、
はみがきの勉強もしました♪

あっ、言えたよ！タイヤって言えたね。きのうまで発声できなかった言葉が今日には言えるようになるなんてすごい。「しょ…ぼ…あ…た…あ」から「しょうぼうしゃ、たいや」へ。また、初来所日、保護者様から離れる時には大泣きしていた子が、やがて帰る時には「バイバイ」と手を振ってくれ、今度は笑顔で来てくれるようになる。ああ、ジブンも〇〇ちゃんにとつての“安全基地”になれたんだなあってうれしさがこみあげてきます。耳を澄まして子どもたちの小さな声、あるいは声にならないかすかな発音の糸をすくい上げ、可能性の芽と一緒に育てていく場所。大きくて柔らかな愛情で包み、子どもたちと感性を交わし合ひながら、もうすぐ訪れる集団生活・社会生活に向けた一步一步を積み重ねています。さあ、新しい発見の扉が今日も開きますよ！（若津 裕幸）



『じえるむ』スタッフ

放課後等 デイサービス 小学生

小学生たちは、学校が終わるとじえるむのお迎えの車に乗りやってきます。宿題をしておやつを食べ、その後はみんなでクッキングや工作等の活動、自由時間があります。子どもたちは活動の中で成功体験や褒められることを積み重ねていき、それが自信へとつながっていきます。そして様々なことに挑戦しようという意欲が生まれ、経験を通して成長していきます。



大きな鬼の絵にみんなで
『ぬりえ』をしました♪
一枚の大きな紙の上で、まわりの子のことも
考えながら集中して塗っていきます♪



お手本通りの振り付けを
みんなで合わせてできるようになりました♪

いつも元気いっぱいの子供たちですが、小さな身体で毎日いろんなことを頑張っています。じえるむでは、子どもたちが安心してできる空間で、それぞれのペースに合わせて活動に取り組んでいます。その中で『できた』という経験や褒められることを積み重ねて成長していく子供たちですが、『できない』ということも、もちろんあります。そんな時、すぐ近くに頼れる大人がいることで、一緒にやって『できた』ということも経験となっていきます。一緒によろこび、考え、日々子どもたちの成長を感じることが毎日楽しみです。



粉をまぜる♪
生地をつくる♪
好きな型を選んで型抜きをする♪
たくさんの工程を重ねながら
『クッキーづくり』を楽しみました♪



主任 寺山 咲希

『いるどらぺ』について

いるどらぺ

- Ile de la Paix -



〈アウトリーチ事業〉

夕刻を支える場『夕刻の場』

ギター教室『こもれびミュージッククラブ (KMC)』

学習の場 (大阪市塾代助成事業)

子ども自立アシスト (大阪市委託事業)

『いるどらぺ』とは、
フランス語で『平和な場所』。

安心安全な場所で、人と出会い、継続的なつながりや様々な体験の機会を通じて、自己肯定感を高め、子どもたちの本来もつ可能性を引き出していきます。見えないところで SOS を出せずにいる人を見つけ、“アクションをおこす” またほしい資源やサービスがなければ、“ないものはつくる” をモットーに活動しています。

大切に
していること

- 安心安全であること
- 誰もがありのままでいられること
- 人とのかかわりを学ぶこと
- さまざまな大人や子どもと出会うこと
- 家族が安心して送り出せること

ギター教室
『こもれび
ミュージック
クラブ』

プロのギタリスト古川忠義氏の「子どもたちにホンモノの音楽に触れ、楽しむ機会を！」という真心のこもったご厚意により古川氏主宰のティーズギターの講師の方々をお迎えし、子どもに寄り添っていただける指導、ギターに触れ、音楽を奏する時間を楽しみ中でギターの技術だけでなく日々、ココロの成長につながっていく教室になりました。教室名は子どもたちみんなで決めました。



夢になれるものがみつかりました！

最初は『夕刻の場』で少しスタッフとギターを練習した中学生を中心に始まりました。普段は何をするのも「めんどくさい」と口癖のように言っていた子どもたちが、ギターを始めると、弾きたい曲を次のギター教室のときまでに家で練習して披露してくれるようになり、メキメキと上達していき、年に一回の音楽祭ではもはや主役になっていきました。そしてそんな姿をみた他の子どもたちも「私もやりたい！あんな風になりたい！」と、どんどん参加するようになり、自分のギターまで購入し、一生懸命練習に励んでいます。



チャリティライブのステージに！
大勢の人の前で演奏が
できるようになりました！



リーダー 北野 寛之

子どもの成長と変化

夕刻を支える場
『夕刻の場』

「夕刻を支える場」とは、学校や放課後児童クラブが終わってから夜にかけての時間や学校がお休みの期間に、子どもたちが安心・安全に過ごせるような取り組みを行っている場のことをいいます。こもれびでは『夕刻の場』と名前を付けて、「誰でも来ていいよ。」という一般的な子ども食堂には自ら行くことが難しい子どもたちのための「おなかとココロを満たす場所」として活動しています。「当たり前に必要なこと」が欠乏している子どもたちに「食」以外にも、経験値を積み上げてほしいという思いから、キャンプや音楽活動などの「体験」する機会を大切にしています。



みんなと一緒に時間をすごして
ココロもカラダも大きくなりました！

最初は自分の担当の特定の大人（パディ）との関わりが中心でした。パディとの信頼関係ができ、「安全基地」ができてきた子どもたちは、次のパディとの関わりや、他の子どもたちとの関わりに「挑戦」していきます。そこで人との関わりに自信を持っていた子どもたちは、やったことのない音楽活動やキャンプなどの体験活動、学習にもチャレンジできるようになっていきました。ありのままの自分が受容される「安心・安全」な場所でお腹と心が満たされ、様々な大人と出会い人との関わりに「自信」がついていく子どもたちが、どんどん色々な活動にチャレンジしていく姿をみられることがこの活動の醍醐味です。



日帰りで『スキー場』に！
はじめてみんなと長時間一緒に
すごしました！



『いるどらぺ』スタッフ
&
こもれびサポーター

子ども
自立アシスト

学校に行けない、行っているけど勉強についていけない、進学なんてどうせできない、人と関わりたくないなど、様々な悩みをもっている中学生や高校生年代の子どもへの訪問または面談支援（大阪市福祉局より2019年に受託）。市内6区を担当し、こどもへの支援だけでなく、学校や区役所など様々な関係機関と連携しながら、こどもの置かれている環境への改善に向けたアプローチも行っています。



自分のしたいことを伝えられるようになりました！

「家族」か「先生」しかほとんど出会ったことのない子どもたちが、ちょっと年上のお兄さんやお姉さんと出会い、一緒に時間の過ごし方を決め、一緒に悩み考え、肯定的な言葉をかけられ、自分で決める経験をしていくことで、一人一人のペースで少しずつ小さな変化を積み重ねていきます。小さな変化が積み重なっていくと、顔を合わせたくない子が顔を見せてくれるようになったり、「なにもしたくない。」と言っていた子が「一緒に〇〇したい！」と言ってくれるようになったり「勉強したくない。」と言っていた子が一緒に勉強するようになったり、「高校行かずに働く！」と言っていた子が「高校行きたい！」と言えるようになったりと、気が付けば大きな変化となっていきます。どんな子どもたちでも、内なるエネルギーが秘められていて、自ら一步を踏み出す力を持っていることに、日々気付かされています。



主任 菅野 幸里

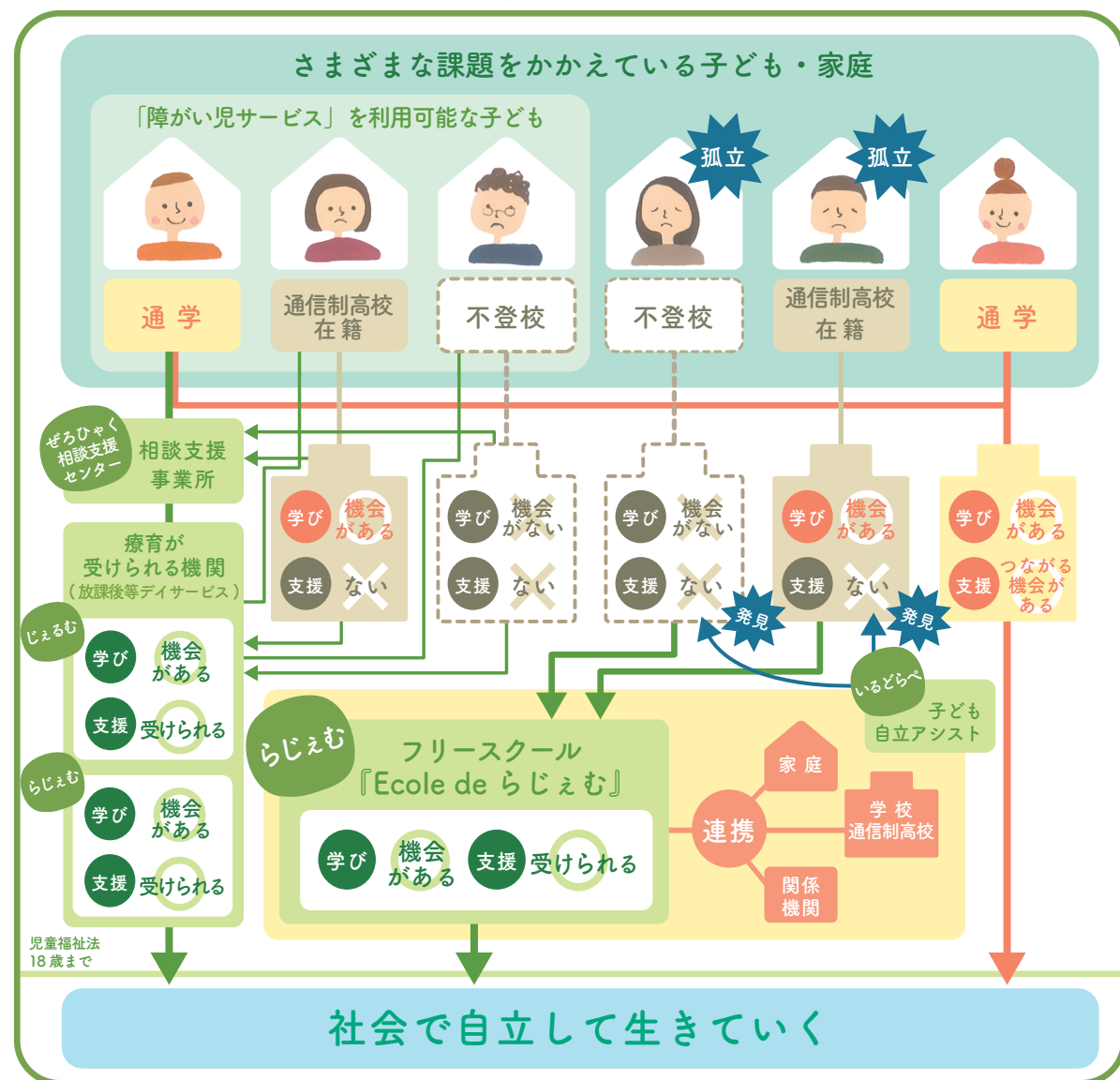
『少しづつ、ひろがって。』

事業を開始してからの5年、さまざま子どもや家庭との出会いがありました。『ゼロひゃく相談支援センター』へ相談に来られた子どもや家庭は『じえるむ』をはじめ他の療育事業所などにつながり、必要な障がい児サービスを利用されています。この障がい児サービスを利用するためには福祉制度の枠組みに入ることが必要です。しかしながら、活動をしていくうちに福祉制度の枠組みには入れない子どもたちと出逢うことが段々増えてきました。学校に通うことができなければ学校教育の中で学びや支援を受けることができますが、その子どもたちの多くが不登校であり、学校に通うことができず、学びの機会を喪失し、支援も届いていません。不登校の子どもや家庭が孤立している現実を目の当たりにし始めました。

『ないものはつくる！原点に。』

これまでの7年間の活動を通じ、「学びや体験の機会」、「ホンモノに出会う機会」等をつくることで子ども自身が自分の可能性に気づき、前向きに人生の一步を進むことができるようになって実感しました。そして、そのためには、環境を整え、子どもの強みを引き出せる理解ある大人が必要だということも。孤立した環境や制度の狭間で支援が届いていない子どもたちに、「学び」や「社会体験」、「新たな出会い」の機会をつくり、社会に出るため準備ができる場の重要性和必要性に駆られ、フリースクール『Ecole de らじえむ（エコール・ド・らじえむ：らじえむの学校）』の開設に至りました。また、幅広い年齢がひとつになっていた放課後等デイサービスも、社会での自立に直面している主に中～高校生の場所を新たに設け、フリースクールと共に「子どもと社会かけはし事業『らじえむ』」として展開していくことを決意しました。

『らじえむ』の社会での意義



2020年12月
より
スタート!!

子ども部門事業

『らじえむ』について

らじえむ

- La gemme -



〈こどもと社会かけはし事業〉

フリースクール『Ecole de らじえむ』（不登校の中～高校生・通信制高校生生徒）
放課後等デイサービス（主に中～高校生：午前の部 / 不登校）

『らじえむ』とは、フランス語で『原石』。

私たちが会える子どもたちは、これから社会に出て光り輝く原石だと感じています。この原石が光り輝くのか、それとも見逃され、ただの石だと思い込み続けてしまうのか…それぞれの子どもたちの個性は、磨き方や整形の仕方によって、さまざまな光を放ちます。子ども自身が自分の可能性に気づくこと。大人がそれぞれの原石の個性を理解すること。そのために、私たちは、「子どもたちが社会に出るまでに必要な力とは何か?」、「その力をつけるために必要なことは何か?」を、一人一人の持っているチカラと向き合い、未来で光を放つ方法を子どもと一緒に考え、導き出していきます。



大切に
していること

- 『ホンモノ』との出会い
- 社会体験（学びの多様性）
- ことばをつかった対話
- 仲間と楽しみを共有する機会
- 考え、判断し、選択し、伝える力
- SOSを発信し、相談する力
- 自分を信じる力

こもれびが考えること

こもれびが考える『ホンモノ』とは？

『素』のもの。

『ゆがんでないもの。』

『バーチャル』ではなく『リアル』なもの。

社会に出た時に、判断し、選択する時に糧となるものだと考えています。

こもれびが考える『自立』とは？

私たちが考える「自立」は、一般的に言われている経済的に親から独立し、自分の稼ぎで生計を立てる「生活力」とは異なり、「自己決定に基づいて主体的な生活を営むこと」、「一人一人がありのままの自分を活かして社会に加わること」だと考えています。

『Ecole de らじえむ』の活動で大切だと思うこと

『Ecole de らじえむ』を必要とする子どもたちに出会い、可能性を伸ばしていくために欠かせないものは「連携」だと思っています。ご家庭・学校・通信制高校・関係機関としっかり連携をとることではじめて、子どもたちにとって必要なものを届けることができると考えています。もし、『Ecole de らじえむ』というところは、子どもを紹介しても大丈夫なところだろうか?と気になる際は、ぜひ、一度お越しいただき様子を見たり、ご案内させていただきたいと思っています。子どもにとって安心安全な場所だけでなく、保護者や学校・通信制高校・関係機関にとっても安心していただけるよう努めています。

なぜ『Ecole de らじえむ』は、中～高校生の不登校・通信制高校生生徒が対象なの？

子どもたちにとって小・中学校での義務教育はとて多くのことを学べる貴重な場です。「あまり早い年齢から学校に行く機会を奪いたくない。」という想いから、社会に出ることに直面していて、不登校状態にある中～高校生や通信制高校に在学する生徒を対象としています。

『Ecole de らじえむ』は、不登校の中でも社会での自立に直面している中～高校生を対象としたフリースクールです。子どもたちがさまざまなホンモノや体験と出逢い、社会生活を営む上で必要となる対人コミュニケーションや社会のルール、マナーなどを学びます。社会に出るための準備をいっしょに行い、自分の意思で次の進路の選択を前向きにできるようサポートします。

午前



〈学習・課題〉

基礎学力定着のための学習時間と
通信制高校の課題やレポートをサポートします。



〈アクティブラーニング〉

運動や調理、音楽などを取り入れながら
経験を積み重ね、社会生活を営むための
スキルを向上します。

昼食

各自で持参してみんなで食べます。

次の進路を前向きに決定するために!!

午後



〈社会体験〉

自分たちで学びを創造することを促きっかけとして、
様々な分野の人をゲストに迎え、自分たちが社会に出た
時のイメージを膨らませます。



〈研究活動〉

興味をもったことや疑問に思ったこと、
もっと知りたいことを自分たちで考え、調べ、
まとめ、伝えることを積み重ねます。

自由時間

自分の好きなことに没頭したり、仲間との交流を
楽しむなど、一人ひとりが尊重される時間です。

掃除

自分たちの過ごす場所を綺麗に保つことで、気持ちよく
毎日を過ごすことや、愛着が持てる場所づくりをします。

これまでこもればや他の事業所で多くの子どもたちと関わってきました。子どもたちの中には、将来に対するイメージがうまく描けず、この道しか自分にはないと消極的に進路を決定する子どももいました。『Ecole de らじえむ』では子どもたちにさまざまな体験をしてもらい、楽しさのなかからたくさんのことを学んでもらいます。そして、自分の将来にはさまざまな選択肢があることを知った上で、考え、判断し、選択してもらいたいです。子どもたちが将来に対する具体的なイメージと自信を持つことができるよう、『Ecole de らじえむ』を子どもと社会をつなぐ場所にします。

リーダー
佐藤 あおい

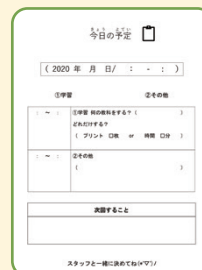


放課後等 デイサービス

「じえるむ」では、2歳から就学前の子どもたち、また小学生以上の子どもたちに段階的な療育を行ってきました。その中で子どもたちは、人への信頼感や自己有用感*を身につけてきましたが、中高生年代の子どもたちが、社会に出ることに直面した時に、さらに自分の強みや弱みを理解することや人に助けを求める力を培うことの必要性を感じるようになりました。「らじえむ」では、一人一人が歩んでいく社会での生活を意識しながら、必要な力を身につける場をつくります。

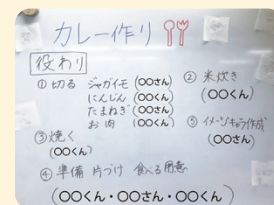
*自己有用感…自分が有用だと思える感情のこと。他者との関係で、自分の存在が誰かの役に立っている、貢献していると認識できる時に、起きる感情のこと。

午前の部：不登校サポート型 午後の部：放課後サポート型



〈学習〉

本人と話し合い、一緒になにを
するか決めています。
学校の宿題や本人が学びたいこ
とのサポートをおこないます。
時には、進路相談やアルバイト
と一緒に探したりしています。



〈軽食・調理実習〉

食べるコトやモノの大切さを学びます。また、調理実習ではみんな
で役割分担し、協力して作業をすることの楽しさを体験します。

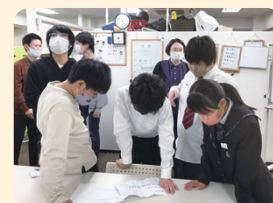


〈自由時間〉

基本的には個人が好きなことをして楽しむ時間ですが、複数人で遊ぶ
カードゲームやボードゲームを通して、仲間の大切さを学びます。

〈ふりかえり〉

気持ちや考えを言葉にして
伝える練習の場にします。
振り返りの中で、等身大の
自分を理解することをサポ
ートします。



〈設定活動〉

さまざまな体験を取り入れ、興味の
幅を広げます。
手先を使い、考えることや基礎体力
づくりを行います。
遊びながら自然とソーシャルスキル
を身につけていきます。

設定活動ではみんなで話し合っ決めていくことを主な目的としています。最初はスタッフから「どれしたい？」と提案をしても、「どっちでもいい。」と発言していた子どもたちが、今では「あれがしたい!」「これはどうかな?」と子ども達为中心となり、話し合うようになりました。日々の設定活動や自由時間での交流が経つにつれて、子ども達が少しずつ変わっていくのを感じています。日々の活動を通して子ども達が本来持っている力を引き出し、社会で生きていくために必要なスキルを身に付けられるようにしていきたいと思ひます。

リーダー
しばや
柴谷 遼伍



ぜひ、ご相談ください!!

- 「勉強のサポートはできるけど、勉強以外のことで気になっていることに踏み込んでいいのか? どう話を切り出しているのか? このこと自体をどの専門家に相談しているのか?」と戸惑われている通信制の先生
- 「不登校状態にある生徒がいてどうしたらいいのかわからない。」とお困りの学校の先生
- 「困っている家庭があるけれど、どこに紹介していいのかわからない。」とお困りの関係機関の方

こもればが必要としているものがあります。

私たちだけでは届けられないのがあります。
それは「社会」です。
限られた人との生活がより子どもたちの世界を狭くします。
少しでも様々な大人を知り、社会に出た時の自分、家庭を持った時の自分をイメージし、今を大切にすごせるように、〈社会体験〉で子どもたちと一緒にすごしていただける方を探しています。気になられた方は、ぜひ、お声がけいただきたいです。

